様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月 １９ 日現在

機関番号：１４３０１
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｈ０３６９０

研究課題名（和文）現代アジア家族の共通性と多様性に関する調査研究とデータベース作成

研究課題名（英文）Construction and Analyses of the CAFS Database for the Study of Commonality and Varieties of Contemporary Asian Families

研究代表者
落合　恵美子（Ochiai, Emiko）

京都大学・文学研究科・教授

研究者番号：９０１９４５７１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　12,900,000円

研究成果の概要（和文）：共通のフォーマットによる質問紙調査を実施して作成してきた「アジア家族比較調査（CAFS）」データベースのさらなる充実のため、イスラム圏を理解するためにトルコ（2016）、東アジアと東南アジアをつなぐミッシングリンクを埋めるためにベトナム南部カントー（2017）にて追加調査を実施した。2017年には6カ国8地域のデータベースが完成して本格的な比較分析を開始し、イスラム圏内の多様性、父系社会の規範変容などが明らかになった。英文書籍Care Relations in Southeast Asia（Brill, 2018）を刊行し、さらに1冊を準備中であり、東南アジア3カ国のデータ公開も行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義
急速な人口高齢化に伴う家族と社会の変化への政策的対応に関心が集まっているアジア地域を対象として、共通の基準による精確なアジア家族の比較分析を行ない、変容を適切にとらえる理論枠組を構築することを目指してきた。共通のフォーマットによる質問紙調査を実施して完成させた「アジア家族比較調査（CAFS）」データベースは、多様な背景をもつ東南・南・西アジア６カ国8地域を含み、アジア家族の複雑な差違と共通性を分析するために最適の、世界的にも稀有な家族調査データベースとなった。アジア諸社会は「家族主義的」「家父長的」と言われるが、宗教、親族組織、経済発展、政策などの相互作用による多様なパターンが見い出せた。

研究成果の概要（英文）：To reinforce the strength of the CAFS (Comparative Asian Family Survey) database, we conducted two additional surveys in Turkey (2016) and Can Tho in the south of Vietnam (2017) to study the diversity in the Islamic societies and to find a missing link between East Asia and Southeast Asia. We constructed a database covering 8 areas in 6 countries in 2017. Our comparative analyses revealed unexpectedly wide differences in the Islamic societies as well as the changes in the social norms in patrilineal societies. We published Care Relations in Southeast Asia (Brill, 2018) in English and are preparing for another book. The datasets from Southeast Asia are open now.

研究分野：家族社会学

キーワード：家族　アジア　数量調査　国際比較　イスラム　家父長制　ジェンダー　東南アジア

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

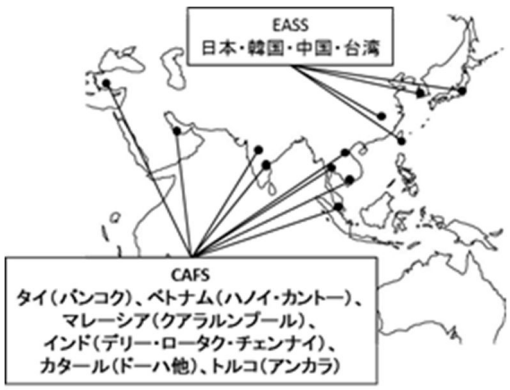
１．研究開始当初の背景

2008 年に開始したグローバル COE「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」(京都大学)は、アジア地域における国際共同研究を実施するにあたり、その前提として、各社会で蓄積されてきた知の共有と、比較可能なデータの蓄積を進めた。下図のような三層を設定し、アジア各社会の重要文献を共有するリーディングス国際共同編集を基層に置いた。その上に立ち、中層に位置づけられたのが、厳密な比較研究を可能にするデータベースを構築するアジア横断数量調査プロジェクトである。

京都大学グローバル COE、および連携関係にあったソウル大学の資金、さらに一部は基盤研究 A「現代アジアの家族変容と福祉レジームに関する国際共同研究」(2011-13) により、タイ (2010)、ベトナム (2010)、カタール (2011)、マレーシア (2012)、インド (2012) において共通のフォーマットによる質問紙調査を行ない、「アジア家族比較調査 (CAFS＝Comparative Asian Family Survey)」データベースを作成した。CAFS の共通フォーマットは東アジア社会調査 (EASS) の 2006 年の家族調査のフォーマットを了解を得て利用させていただいたものなので、東アジア 4 社会と CAFS の東南アジア、南アジア、西アジア 5 社会のデータセットを合わせて、アジア 9 社会における家族の比較研究が可能となった。

CAFS プロジェクトの進行に伴い、いくつもの明らかな研究成果が得られた一方で、課題も浮上してきた。第一の明らかな成果は、東アジアと東南アジアとの違いである。しかし、ベトナムの結果は奇妙であり、意識は東アジア以上に東アジア的 (儒教的) であるが、行動は東南アジア的という、両地域の境界としての性格があることが、東南アジアチームの比較分析から明らかになった。しかしベトナムのデータは、中国の儒教文化規範から強く影響を受けていると言われるハノイ地域のものであったので、より東南アジア的だと言われるベトナム南部のデータを加えて、東アジアと東南アジアとの連続性と断絶をより詳細に描き出すことが、次の課題として浮かび上がってきた。

第二に CAFS は、これまでマレーシア、インド、カタールにおいてイスラム教徒のデータを収集してきた。マレーシア内の民族による違いを見ても、イスラム教徒は特徴的なパターンを示している。しかし、同じイスラム教徒であっても、東南アジアと西アジアでは慣習に大きな違いがあるとされる。また、近年のイスラム原理主義の台頭により日常生活にもイスラム規範の影響力が強まっていると言われる。このように非常に重要だが計量的な知見は乏しいイスラム圏内部の差異と変化の分析のために、CAFS は貴重なデータを提供できる。しかしさらに説得力のある分析を行うためには、西アジアの大国であり、イスラム教徒の人口割合が高いが近代化と西洋化も進んでいるトルコのデータをぜひとも加えたいと考えた。



この二つの課題を解決し、アジアの全体像を把握するためにより適切なデータベースを構築すべく、ベトナム南部、およびトルコでの調査を実施することを計画した。

２．研究の目的

本研究は、急激な経済発展に伴い、家族と親密圏の変容を経験しているアジア地域を対象として、共通のフォーマットを用いた質問紙調査を実施し、アジア家族比較研究のためのデータベースを構築して、共通の基準に基づいた精確な比較分析を行うことを目的とする。アジア諸地域は、異なる家族システム、宗教規範、政治体制、社会保障制度、経済発展度などの社会文化的条件が重層的に絡まり合い、非常に複雑な家族システムの差異と共通性を内包している。本研究では EASS の東アジア 4 社会と申請者らが行った東南・南・西アジア 5 社会に追加する形で、新しくベトナム南部とトルコの 2 社会において質問紙調査を行い、合計 10 社会 12 地域（インドとトルコは２地域ずつ） のアジア社会の家族と親密圏について比較分析を実施して、アジア地域内部の家族システムの多様性を生むロジックを明らかにする。

３．研究の方法

(1) トルコにおける質問紙調査の実施：トルコのアンカラにおいて質問紙調査を実施した。ハジェッテペ大学のイズメット・コッチ教授が実査の統括を担当した。トルコ調査に特有の質問項目の作成に関しては、トルコの地域研究を専門とする村上を中心に内容面での助言を行った。9 月までに実査を完了する予定であったが、現地の政情不安のために一時中断を余儀なくされ、完了は 10 月となった。1229 票を回収した。その後、データクリーニングと基礎的分析を行なった。政情不安の中での調査実施には心配もあったが、コッチ教授が現地の情報を収集して実施可能

と判断した。その後、状況はむしろ悪化しているので、アジア家族の共通性と多様性を理解するために極めて重要な中東地域において、（この数年では）最後かもしれないチャンスに調査できた意義は大きいと考える。トルコチームの健闘に感謝している。（写真はアンカラにおける実査の様子）

（2）ベトナム南部における質問紙調査の実施：ベトナムのカントーにおいて質問紙調査を実施した。実査については、ベトナム社会科学院家族ジェンダー研究所のグエン・フ・ミン教授が実査の統括を担当した。5 月から 6 月までに質問項目を確定し、プレテストを実施して、実査の準備をした。既に実施した調査との比較可能性を考慮して質問項目を追加した。実査は 8-9 月に実施した。1205 票を回収。並行して 30 件のインデプスインタビューを実施した。その後、データ入力およびクリーニングと基礎的分析を行なった。

（3）CAFS データを用いたアジア家族の比較分析：本プロジェクト開始当時、既存データのうち、ベトナム北部（ハノイ）、タイ、マレーシアについてはある程度の分析結果が出ていたが、インドとカタールのデータはクリーニングを終えたばかりであり、本格的な分析はこれからというところであった。CAFS５社会と EASS４社会についての比較分析結果を進める一方、（1）のデータベース構築を続け、2017 年にデータベースが完成してからは、ベトナム南部（カントー）とトルコも含めた分析を行った。分析結果は国際学会、国内学会などで国際セッションを組んで発表した。

（4）CAFS データベースの共有・公開：5 社会の既存データを CAFS 国際チーム（海外研究協力者）が共有するためのルールを定め、2018 年より共有を開始した。また東南アジア３社会のデータベースを研究目的で公開するためのルールを定め、グループ外研究者の利用も開始した。

４．研究成果

当初計画では 2016 年から 2019 年までの 4 年間で達成する予定であった以下の 3 点を、2018 年までの 3 年間で達成し、3 年間でプロジェクトを完了させることとした。

（1）調査実施とデータベースの完成：トルコとベトナム南部（カントー）において質問紙調査を実施し、これまでに調査実施した地域におけるデータと併せて、ベトナム、タイ、マレーシア、インド、カタール、トルコの 6 社会 8 地域についての「アジア家族比較調査（CAFS）」データベースを 2017 年度中に完成させた。トルコとベトナム南部のデータクリーニングとデータベース構築を予定以上に早く完了できたためである。共通フォーマットを用いた世界に類例のない広域にわたる家族比較データベースを完成させた意義は大きいと自負している。

アジア家族比較調査（CAFS）調査概要　＊エリアサンプリングと割当法を併用し面接法により実施

国	タイ	ベトナム	カタール	マレーシア	インド	トルコ	ベトナム
調査年	2010	2010	2011	2012	2012	2016	2017
調査機関	チュラロンコン大学	ベトナム社会科学院	カタール大学	プトラ・マレーシア大学	デリー大学	ハジェッテペ大学	ベトナム社会科学院
	ソウル大学	京都大学	ソウル大学	京都大学	京都大学	京都大学	京都大学
調査地	バンコク	ハノイ	ドーハとその周辺	クアラルンプールとセランゴール	デリー・ロータク・チェンナイ	アンカラ	カントー
調査対象	17-75 歳男女	17-75 歳男女	18-75 歳男女	18-75 歳男女	18-75 歳男女	17-75 歳男女	17-75 歳男女
回答者数	1092	1219	1008	1729	2366	1229	1205

（2）CAFS データベースを用いたアジア家族の国際比較分析：作成した CAFS データベースを用いて比較分析を行い、現代アジア家族の共通性と多様性について国際会議等で研究成果を発表した。また英文書籍も刊行した。

（2－1）主な知見

世界に類例の無いデータベースから生み出される世界で初めての知見について簡潔に紹介するのは難しいが、今後の理論的展開につながりうる、いくつかの注目すべき成果を紹介しておこう。予想を裏付ける結果ももちろんあるが、それ以上に興味深いのは予想を裏切る結果である。

①トルコについての基礎的分析

・世代による意識や行動の変化が小さいというトルコの特徴が明らかになった。

・ジェンダー関係に関しては「夫は金を稼ぎ妻は家庭を守る」という性別分業への賛成がトルコのアンカラで低いのは予想外だった。同じイスラム文化の影響の強いクアラルンプールよりかなり低い。トルコ国内の地域差の大きさ、都市部の先進性がうかがわれる。東南アジアのイスラムは西アジアのイスラムに比べて規範が緩いという通説を再検討する余地がある。近年のイスラム的規範の強化と関係づけられる可能性もある。

②ベトナム南部についての基礎的分析

・ベトナム南部と北部の差が出る項目と出ない項目があり、より詳細な検討を要する。

・ベトナムの特徴であるジェンダーに関する意識と行動のギャップは両方の地域で見られる。

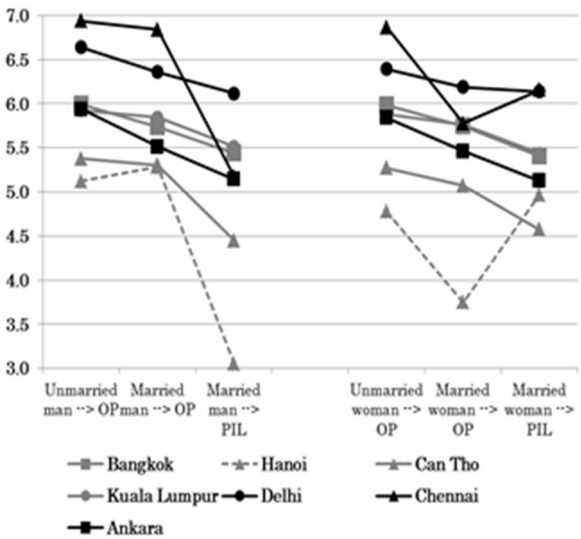
③家父長制の多様性

・伊達（2013）は家父長制意識の二つの次元を区別したが、今後の研究により、さらに多くの次元が見出される可能性もある。

・東南アジアにおけるジェンダーに関する意識と行動のギャップは特徴的。

④アジア諸社会における家族の相互扶助機能の変容

・自分と配偶者の親への経済的支援規範の強さを示す右図(伊達作成)は CAFS データを用いて自分の親（OP）と配偶者の親（PIL）に対する経済的支援規範と婚姻地位・ジェンダーとの関係を例として分析してみたものである。父系社会に想定されるパターンが明確なのはハノイとインド南部のチェンナイだけであり、他はアンカラやデリーも含めてみな日本についての稲葉（2018）の知見に近く、未婚同居子は既婚同居子より大きな援助を行っている。この結果は父系社会の変容を物語たるものなのか、父系社会についての通説の問題点を示しているのか、さらなる理論的・実証的問いへと導かれる。



（2－2）国内外の主要な学会大会での CAFS に関するセッション

①2016 年 7 月にウィーンで開催された世界社会学会の国際会議でセッションを設け（岩井八郎と Eun Ki-Soo がオーガナイザー）、プロジェクトのこれまでの成果を発表した。

②2017 年 9 月に京都大学にて開催された日本家族社会学会の公開大会シンポジウム「日本とアジアの家族：社会調査で捉える現状と変容」（日本学術会議が共催）にて、岩井八郎が本プロジェクトのこれまでの成果を発表した。

③2018 年 7 月にカナダのトロントで開催された世界社会学会において、本調査の成果を発表するセッションを開催した。岩井および海外研究協力者である Ismet Koc、Eun Ki-Soo、Nguyen Huu Minh が参加し、成果発表と研究打合せを行った。伊達は渡航しなかったが Eun と共同論文を発表した。

（2－3）英文書籍刊行

①2018 年 11 月に、東南アジア 3 カ国のケアの比較研究の成果である *Care Relations in Southeast Asia: The Family and Beyond* を Brill 社より刊行した。

②基礎的な比較分析の成果である 2 冊目の書籍には、当初の予定では東南アジア 3 カ国とインドを収録する予定だったが、早めに分析に着手できたトルコとベトナム南部も加えることとし、データクリーニングに時間のかかっているカタールを除き、5 カ国 7 地域についての分析結果の刊行準備が進んでいる。Eun Ki-Soo、伊達平和らの共著。

（3）CAFS データベースの公開

海外研究協力者も含めた研究グループ内での共有を 2018 年 1 月 15 日の Agreement に基き開始した。2018 年度末には、東南アジア 3 カ国のデータセットのグループ外の研究者の利用も開始した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計5件（うち査読付論文　4件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　5件）

１．著者名 Hachiro Iwai	４．巻 15
２．論文標題 Family Changes and Family Values in Asian Societies: Exploring Similarities and Differences Based on EASS 2006/2016 and CAFS	５．発行年 2019年
３．雑誌名 日本版総合社会調査共同研究拠点研究論文集 JGSS Research Series	６．最初と最後の頁 29-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 岩井八郎	４．巻 30巻1号
２．論文標題 アジアの家族変動と家族意識：東アジア社会調査（EASS）とアジア比較家族調査（CAFS）からみた多様性と共通性	５．発行年 2018年
３．雑誌名 家族社会学研究	６．最初と最後の頁 135-152
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.4234/jjoffamilysociology.30.135	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 村上薫	４．巻 82巻3号
２．論文標題 名誉解釈の多様化と暴力：イスタンブルの移住者社会の日常生活をめぐって	５．発行年 2017年
３．雑誌名 文化人類学	６．最初と最後の頁 328-345
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.14890/jjcanth.82.3_328	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 ASATO, Wako	４．巻 Vol. 27
２．論文標題 “Welfare regime and labour migration policy for elderly care: new phase of social development in Taiwan”	５．発行年 2017年
３．雑誌名 Asia Pacific Journal of Social Work and Development	６．最初と最後の頁 211-223
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.1080/02185385.2017.1408489	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 落合恵美子	４．巻 55
２．論文標題 日本研究をグローバルな視野に埋め直す――「日本」と「アジア」の再定義	５．発行年 2017年
３．雑誌名 日本研究	６．最初と最後の頁 85－103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） info:doi/10.15055/00006578	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計22件（うち招待講演　9件／うち国際学会　16件）

１．発表者名 Eun Kisoo and Date Heiwa
２．発表標題 Asian Family Values in the 21st Century: Overview of Comparative Asian Family Survey Data
３．学会等名 The XIX ISA World Congress of Sociology（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Nguyen Huu　Minh
２．発表標題 Vietnamese Family Values: Similarities and Differences between Two Large Cities in the North and the South-Ha Noi and Can Tho
３．学会等名 The XIX ISA World Congress of Sociology（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Ismet Koc
２．発表標題 Realized, Unrealized or Excess Fertility? Evidence from Comparative Asian Family Surveys in China, Japan, South Korea, Taiwan and Turkey
３．学会等名 The XIX ISA World Congress of Sociology（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Yamato Reiko
２．発表標題 Changing Roles of the Wife and the Husband in Care-Giving to Their Older Parents in Japan
３．学会等名 The XIX ISA World Congress of Sociology（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Yamato Reiko
２．発表標題 Determinants of intergenerational living arrangements in Japan: A comparison between living together, living nearby, and living far away with the husband’s and the wife’s parents
３．学会等名 the joint conference for RC06 and RC41: Changing Demography, Changing Families held in Singapore（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Kaoru Murakami
２．発表標題 Reconsidering Honor: Everyday violence and social position among migrants in Istanbul
３．学会等名 World Congress for Middle Eastern Studies（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Ochiai Emiko
２．発表標題 Toward a Theory of Human Reproduction in Mature Societies: Asian, European and American Paths
３．学会等名 SASE（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Ochiai Emiko
２．発表標題 Toward a Theory of Human Life in Mature Societies: European, American and East Asian Paths to Go Beyond the 20th-Century Model of Social Reproduction
３．学会等名 Asia and the World’Public Lecture, The Graduate School of International Studies (GSIS), Seoul National University（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Nguyen Huu Minh
２．発表標題 Family Values in Vietnam and Preliminary Comparisons with EASS 2006 Findings
３．学会等名 比較アジア家族調査成果報告会： CAFSベトナム調査とEASS2006・2016の分析（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Iwai Hachiro
２．発表標題 How Have Family Values Changed in East Asian Societies?: Results from EASS 2006 and 2016
３．学会等名 比較アジア家族調査成果報告会： CAFSベトナム調査とEASS2006・2016の分析（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Iwai Hachiro
２．発表標題 Family Changes and Family Values in Asian Societies: Exploring Similarities and Differences Based on EASS 2006/2016 and CAFS
３．学会等名 EASS 2018 Seoul Meeting（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 岩井八郎
２．発表標題 アジアの家族変動と家族意識：東アジア社会調査（EASS）とアジア比較家族調査（CAFS）からみた多様性と共通性
３．学会等名 日本家族社会学会（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 村上薫
２．発表標題 企画セッション「イスラーム・ジェンダー学の未来：セクシュアリティにみる国家・宗教・ジェンダー」へのコメント
３．学会等名 日本中東学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 落合恵美子
２．発表標題 文化越境の帰結としての日本家族
３．学会等名 京都大学文学研究科・文学部公開シンポジウム「文化越境のダイナミズム」（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 伊達平和
２．発表標題 出会いと結婚に関する計量社会学的検討―アジア8地域を対象として
３．学会等名 比較家族史学会2016年春季大会シンポジウム（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Yamato, Reiko
２．発表標題 Patrilineal, bilateral, or individualized? Changing intergenerational relationships in Japan
３．学会等名 The Third ISA Forum of Sociology（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Ochiai, Emiko
２．発表標題 Longevity revolution and the reconfiguration of the intimate and public spheres: European paths and Asian paths
３．学会等名 the Final conference of the 2016 Blaise pascal chair at the EHESS on "Changing Care Diamonds in Europe and Asia: Asianization of Europe and Europeanization of Asia?"（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 ASATO, Wako
２．発表標題 Welfare Regime in Asia: Diversity in Similarity
３．学会等名 The 2016 Annual Conference of Social Welfare Association of Taiwan Transformation of Welfare System in Aging Society: Governance, Political Party and Citizen Movement（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 安里和晃
２．発表標題 超高齢社会をどう支えるか― アジア諸国の試行錯誤
３．学会等名 セミナー少子高齢化への対応策を考える（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 ASATO, Wako
２．発表標題 Japanese-Filipino Children and Trafficking
３．学会等名 CHILDREN ON THE MOVE: MIGRANT CHILDREN AND YOUTH IN ASIA
４．発表年 2016年

１．発表者名 ASATO, Wako
２．発表標題 Neo-Plural Society from the Perspectives of Intersection between Migration and Welfare Regime: Cases from Gulf Countries
３．学会等名 日本国際政治学会
４．発表年 2016年

１．発表者名 IWAI, Hachiro & Eun, Ki-Soo　(Session Organizers)
２．発表標題 Session Theme "Convergence or Dicergence of Asian Family Value and Practice: Comparative Studies Based on Cross*National Datasets in Asia”
３．学会等名 3rd ISA Forum of Sociology, International Sociological Association（国際学会）
４．発表年 2016年

〔図書〕　計12件

１．著者名 Patcharawalai Wongboonsin, Jo-Pei Tan et al.	４．発行年 2018年
２．出版社 Brill	５．総ページ数 374
３．書名 Care Relations in Southeast Asia	

1．著者名 伊達平和	4．発行年 2017年
2．出版社 日本経済新聞社	5．総ページ数 367(121-142)
3．書名 「アジア七地域における『出会いと結婚』の諸相」平井晶子・床谷文雄・山田昌弘編『出会いと結婚（家族研究の最前線2）』	

1．著者名 大和礼子	4．発行年 2017年
2．出版社 学文社	5．総ページ数 206
3．書名 『オトナ親子の同居・近居・援助―夫婦の個人化と性別分業の間』	

1．著者名 村上薫（編）	4．発行年 2018年
2．出版社 日本貿易振興機構アジア経済研究所	5．総ページ数 245
3．書名 不妊治療の時代の中東：家族をつくる、家族を生きる	

1．著者名 村上薫（榎本泰子編）	4．発行年 2018年
2．出版社 樹花舎	5．総ページ数 284(147-161)
3．書名 アジアと生きる　アジアで生きる	

1．著者名 安里和晃編	4．発行年 2018年
2．出版社 京都大学出版会	5．総ページ数 318
3．書名 『国際移動と親密圏：ケア・結婚・セックス』	

1．著者名 安里和晃	4．発行年 2017年
2．出版社 勉誠出版	5．総ページ数 328(240-268)
3．書名 「第九章　台湾における外国人労働者政策と高齢者介護政策―国境を越えるケアの制度的整合性」松岡悦子編『子どもを産む・家族をつくる人類学オールターナティブへの誘い』	

1．著者名 安里和晃	4．発行年 2017年
2．出版社 くろしお出版	5．総ページ数 304(234-244)
3．書名 「介護に従事する多様な海外人材のチャネルと人材育成」宮崎里司/西郡仁朗/神村初美/野村愛編著『外国人看護・介護人材とサスティナビリティ』	

1．著者名 大和礼子	4．発行年 2016年
2．出版社 東京大学出版会	5．総ページ数 364（275-291)
3．書名 「公的介護保険導入にともなう介護期待の変化――自分の介護を誰に頼るか」，稲葉昭英・保田時男・田渕六郎・田中重人編『日本の家族 1999-2009 全国家族調査[NFRJ]による計量社会学』	

1．著者名 柴田悠	4．発行年 2016年
2．出版社 勁草書房	5．総ページ数 274
3．書名 子育て支援が日本を救う――政策効果の統計分析	

1．著者名 柴田悠	4．発行年 2017年
2．出版社 朝日新聞出版	5．総ページ数 232
3．書名 子育て支援と経済成長	

1．著者名 伊達平和	4．発行年 2018年
2．出版社 協同出版	5．総ページ数 155-174
3．書名 「家父長制の変容と世代―アジア7地域における社会変動と家族変動」『教職教養講座　第12巻　社会と教育』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	岩井　八郎 (Iwai Hachiro) (80184852)	京都大学・教育学研究科・教授 (14301)	
研究分担者	伊達　平和 (Date Heiwa) (70772812)	滋賀大学・データサイエンス学部・講師 (14201)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	大和　礼子 (Yamato Reiko) (50240049)	関西大学・社会学部・教授 (34416)	
研究分担者	村上　薫 (Murakami Kaoru) (00466062)	独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・新領域研究センター　ジェンダー・社会開発研究グループ・研究グループ長代理 (82512)	
研究分担者	安里　和晃 (Asato Wako) (00465957)	京都大学・文学研究科・准教授 (14301)	
研究分担者	押川　文子 (Oshikawa Fumiko) (30280605)	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・研究員 (12603)	削除：平成29年10月4日
研究分担者	柴田　悠 (Shibata Haruka) (50631909)	京都大学・人間・環境学研究科・准教授 (14301)	